閉塞性大腸癌に対するbridging to surgeryとしての大腸ステント留置に関する研究

１．研究の対象

2013 年 4 月から現在までで閉塞性大腸癌に対してステント留置術を施行した症例

２．研究目的・方法

閉塞性大腸癌に対する大腸ステント治療が2012年に保険収載され、大腸ステントによるbridge to surgery(BTS)が本邦でも広く普及している。早急な口側腸管の減圧により緊急手術を回避し、適切な検査・準備を得て待機手術を行うことで、術後合併症を減らすことができる。しかし、ステント留置の際の穿孔が局所再発や腹膜転移を惹起し、予後を悪化させる可能性が指摘されており腫瘍学的長期成績に関しては不明な点が多い。本研究では当院におけるBTSとしての大腸ステント留置の意義について検討する。

３．研究に用いる試料・情報の種類

病歴、治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号　等

４．外部への試料・情報の提供

無し

患者さんの個人情報は適切に管理され、その情報が外部に漏れることはありません。

５．研究組織

りんくう総合医療センター

瀧口暢生　消化器外科　副医長

市川善章　消化器外科　医長

古川陽菜　消化器外科　医長

東　重慶　消化器外科　医長

大村仁昭　消化器外科　部長

三宅正和　消化器外科　部長

柏﨑正樹　消化器外科　部長

種村匡弘　消化器外科　主任部長

６．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内

(2023 年 7 月 4 日)

で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
住所：大阪府泉佐野市りんくう往来北 2-23　TEL:0724693111 瀧口暢生

研究責任者：りんくう総合医療センター　瀧口暢生　消化器外科　副医長

(2023 年 7 月 4 日)